

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2570500062		
法人名	株式会社 アイエスアイ		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	滋賀県東近江市聖徳町4-23		
自己評価作成日	平成23年10月3日	評価結果市町村受理日	平成23年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570500062&amp;SCD=320&amp;PCD=25">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570500062&amp;SCD=320&amp;PCD=25</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜 432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成23年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームさくら苑では、その人らしい生活を支援できる様、関わりを多く持っている。利用者様が話やすく、又、孤独感を和らげる為、担当職員制度を行っている。担当職員は、より、個人との時間を多く持ち、信頼や安心を感じてもらえる様、取り組んでいます。食事やおやつ等、楽しみを感じて頂けるよう工夫している。又、接遇面においては、人生の先輩である事を念頭に、丁寧な対応を心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は前庭と菜園を持つ広い敷地の静かな環境の中に立地し、ホーム内には光がいっぱい差し込んでいる明るい雰囲気のある事業所である。基本理念は「その人らしい生活を支援します」「楽しみの持てる楽しい生活を支援します」「地域のつながりを大切にします」と謳っている。克明に記載された介護日誌やモニタリング、フェイスシート、また職員の担当制による木目細かなサービスの提供は、理念の実践に事業所全体で取り組んでいる事を窺わせる。午前のレクリエーションタイム、午後のおやつタイムには利用者の明るい表情や歌声があふれている。ゆったりと時間が流れ、ほのぼのとした生活が感じられるグループホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲げ、職員は周知している。又、理念を踏まえた行動を行うよう心がけている	「その人らしい楽しみの持てる生活を支援し地域とのつながりを大切にする」の理念を玄関に掲示し、スタッフ会議やショートミーティングで話し合い、周知と理解に努めている。職員は理念を念頭にケアを実践する様心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(盆踊り、敬老会)、子供会神輿の休憩所としての敷地提供、夏休みラジオ体操の敷地提供等	地域の行事への参加や夏休みのラジオ体操会場の提供などで交流している。散歩の途中や病院で出会う近所の人たちとも親しく話をしたりしているが、事業所と地域との交流までには達していない。自治会には10月から加入した。	自治会入会を契機に、地域との交流を積極的に行い関係拡大を推進して欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方向けの認知症講座を計画している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議冒頭にて、活動報告等を行っている。会議出席者からの意見や提案を取り入れている。	地域代表3名、家族代表、行政、事業所代表2名のメンバーで構成し、偶数月に開催している。議事録は作成しているが活動報告のみ記載している。8月の会議では自治会加入を決定した。	外部評価調査結果を報告し、目標達成計画のモニター役として支援、協力をしてもらえ運営を期待したい。議事録には協議内容も記載して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員の事例検討会への参加	長寿福祉課に直接相談利用することは少ない。長寿福祉課とは3か月ごとに開催する「事例相談会」で指導を受けたり、相談をすることで協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為はスタッフ全てが理解できる様資料を作り、理解に努めている。	家族の同意を得て身体拘束(つなぎ服使用)した過去の事例から、拘束は問題の解決にはならない事を学んだ。現在は拘束に至る以前の原因を排除するケアを全員で実践している。玄関の施錠は夜間のみで、利用者の居室の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	威圧感のある言葉使い等に注意を払い、傷等の確認を入浴時に行い、都度スタッフ間で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者/計画作成担当者は理解しているが、職員全てでは取り組めていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明及び疑問点について話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置している	家族との食事会で話したり、面会時に聴取している。苦情は「苦情相談受付書」に記載しているが解決措置は記載してない。相談窓口は事業所の担当者と外部公的機関の窓口を重要事項説明書に記載し説明している。	家族との食事会があるので、これを家族会に発展させてほしい。「苦情相談受付書」には、解決処理も記載して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートミーティング、定例会議時にスタッフに発言を促している。	月例のスタッフ会議も現在は3か月に1回程度の開催となっていて職員の発言も少ない。管理者はマンツーマンで意見を聞きたいと考えているが、機会がなかなか取れず職員意見の聞き取りに苦慮している。	スタッフ会議は月例開催し、職員の意見のくみ上げをすると共に、個別面談や提案制度の発足にも取り組むことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入の為、新たに人事考課を取り入れ、各手当の新設を協議中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部管理者会議において、研修計画を策定し計画に沿って内部研修、外部講師を招いての研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に管理者/計画作成担当者及び希望職員共が出席し同業者とのコミュニケーションを図る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりを多く持ち、本人との信頼関係の構築に力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かな報告や、相談など密に連絡をとる様心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込相談に対応すると共に必要と判断すれば居宅ケアマネに同席してもらう等、見識を広げるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に調理の下準備や食器拭き、掃除等に参加して頂いている。日常の会話の中でも冗談を言い合い、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、どんな事でも報告を行い、一緒に本に様にとって良い方法を考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時住まわれていた地域へ、外出時立ち寄りしたりしている。事業所の買い物等利用者様と一緒に出かけの事もあり、なじみの方と出会った場合には会話等出来る支援を行っている。	買い物や病院へ行った時に、交流を支援している。馴染みの友人の訪問があるが、職員は再訪してもらえるよう依頼し挨拶に努めている。併設したディサービスの利用者とも交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係を大切に、座る場所、レクリエーション時のグループ等、関係を大切にしている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人様と出会い、関係者との情報の交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活ペースは本人様に決めて頂いている。	利用者の中には思いや意向が入居時と変わった人もいますので声掛けや表情から現在の思いや希望を把握して、あくまで本人本位の生活ペースで支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方等、本人を含め、家族様や関係機関から情報を収集しケアプランに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態は朝のバイタルチェック時に把握し、常に変化や異変に気づく様心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様からの話を基に、スタッフの意見を取り入れ介護計画を作成している。	担当職員と協議して作成する介護計画は3か月ごとに見直しを行っている。状態が変化した場合はサービス担当者会議を実施して、その都度介護計画を見直している。いずれの場合も家族の確認印かサインを得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には毎日記入し、勤務時間や受診、家族様の言葉等を色分けし、スタッフ誰が見ても理解できる様取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフによる受診は協力医療機関での受診となるが治療内容について要望があれば以前のかかりつけ医の受診を促している。	2名の利用者はかかりつけ医で家族が付き添って受診している。その他の利用者は、利便性から本人の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理はスタッフが行っているが、必要時にはかかりつけ医院や関連事業所看護師に意見や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様又は医療スタッフとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の高齢化に伴い、エアマットの使用や車いすでの生活をして頂いている。	過去に看取りを経験しているが、事業所としての方針は確立していない。従って本人・家族との話し合いもしていない。	早急に事業所としての方針を文書化し、其れを基に早い段階から本人や家族と話し合い、方針の共有をして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別には救急法を受けた者がいるが、事業所として定期的な取り組みは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て総合訓練を実施した。	火災時の対応マニュアルは作成し、災害時連絡網や避難経路図の掲示、消火・通報設備も設置している。総合消防訓練は23年3月消防署指導で実施した。地域の参加はなかった。スプリンクラーは設置準備中である。	消防署、地域の参加協力を得た災害避難訓練を年2回実施し、内1回は夜間を想定した訓練実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、その方に合った話し方をしている。ケアに対しても本人のプライバシーを大切にしケース記録は外から見えないよう配慮している。	2か月ごとに開催している社内研修のテーマに取り上げている。職員は利用者を人生の先輩として敬い、やさしい言葉で接している。個人情報書類は事務所の書庫に入れてるが施錠出来ないでカーテンでカバー管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方や入浴の可否等は本人様に確認を行い、自己決定してもらっている。個別での関わりを持ち、話しやすい雰囲気作りの努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、その日の本人様のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は2カ月に1度、訪問カットに来て頂いている。化粧品等は一緒に買い物に行き選んだりしている。美容ボランティアの訪問もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は盛りつけに工夫を凝らしている。月1回はお弁当の日を決め喜んでもらえる様にし、季節の行事にはメニューを利用者様に決めて頂いている。	食材の皮むき、食器拭き等、能力に応じて食事の準備や片付けに参加している。食事は利用者に応じて食べ易く調理している。月に1回はお弁当の日を設けて楽しんでいる。職員は持参の弁当と一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分の摂取を行っている。献立については食材業者において、栄養管理できるようにになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前、起床時に歯磨きを行って頂いている。又、義歯については、消毒日を設定し、計画に沿って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を考慮し、声かけを多く行っている。	排泄チェックシートを作成し、職員はショートミーティング等で利用者の状態を共有している。本人の意向を尊重した声掛けで誘導を行っており、現在は利用者全員がトイレ排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防におやつ時等に牛乳を利用した物を提供したり、起床時にコップ1杯の水を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を聞き可否を決定している。入浴剤を利用し、香りを楽しんで頂いたり、季節時には、ゆず風呂等も行っている。	昼間は何時でも入浴できる状態にしている。2名の入浴嫌いの利用者以外はほとんど毎日入浴している。入浴嫌いの利用者でも下着交換等の理由付けで誘導し、最低週2回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の基本時間はあるが、本人様の状態を尊重し自発的に就寝できる様、関わりを持って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に最新の個別の薬の説明書を綴り、いつでも確認できるようにしている。各人の1日分をセットし手渡しを行い、服薬を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に沿った行事を行い、食事やおやつも教示に合ったものを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物外出や季節の外出、本人様の希望に沿って散歩等を行っている。	4名の利用者は毎日散歩に出掛けている。おやつや日用品の買い物にもその都度出掛けている。利用者全員が計画に基づき外出するのは、春の桜見物、秋の紅葉狩り等季節の外出となっている。	毎日出かけている4名以外の利用者も、家族や地域の協力を得て外出が実現するよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら金銭管理をされている利用者様もおられる。外出時には、お土産等購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、随時家族様と電話できる様にしている。また受診結果や連絡時等、利用者と電話を代わり話せる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアテーブルには、庭に咲いている花を飾り、居室には本人様が作られたカレンダーを飾っている。	広くゆったりした食堂、テレビや雑誌を置き、くつろげる居間は採光も良く、シンプルで落ち着いた雰囲気が漂っている。利用者専用のバリアフリー構造のシャワートイレも完備し居心地良く安心して暮らせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所にTVがあり、気のあった方同士で会話や、視聴を楽しまれている。和室では、一人ゆっくりされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用されていた家具等持ち込まれ、自由に利用して頂いている。	居室はすべて洋室で床暖房を完備し、エアコンは夏季のみの使用となっている。各利用者とも慣れ親しんだ家具や調度品を持ち込み写真等を飾って自分の生活に浸っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等には場所の名前を書き、居室には名前を書いた表札を掲示し、混乱を防いでいる。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	日常生活を送る中で、漠然と時間が流れている。個々の利用者のADL維持や向上が横ばいになっている。	ADLを維持し、利用者の感情や生きがいを見つけていく。	利用者個別担当を生かし、個別に外出や身の周りの事を支援しながら、個人の生きがいや生活の中に豊かさが感じられる様に支援していく。	12 ヶ月
2	34				ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。